

〔学校紹介〕 福井工業大学インターナショナルセンター

福井工業大学 インターナショナルセンター長 中安 文男

1. はじめに

2012年10月に開設されたインターナショナルセンター(FUT International Center: 略称 FIC)は、学校法人金井学園海外事業部 ASEAN 事務所との連携を強め、学園及び大学の国際化政策を一元的に執行する組織として、2014年4月に新しい「インターナショナルセンター」として発足した。インターナショナルセンターは、「国際交流」の推進、「留学生派遣」支援及び「留学生受入」支援を行う本学の国際交流の拠点となっているが、インターナショナルセンターの主な活動内容は以下のとおりである。

- ① 海外大学との交流を含む国際交流活動
- ② 在学生の短期留学、中期留学及び長期留学支援
- ③ 本学への留学生受入支援

2. 海外大学との交流を含む国際交流活動

現在、本学は表-1に示す9大学、1国家机关と教育・研究に関する交流協定を締結している。これらの大学・機関とは、学術面に加えて教員・学生間の交流も進めている。本稿ではタイ王国ネイション大学とのジョイント・シンポジウム及び日本・アジア青少年サイエンス交流事業「さくらサイエンス」について紹介する。

平成26年1月、本学とタイ王国のネイション大学の間で、教育・研究に関する協力協定が締結された。この協定に基づく協力の一環として、本学とネイション大学との第一回ジョイント・シンポジウムが、平成26年12月にタイ王国ランパーン市のネイション大学ランパーン校において、第二回ジョイント・シンポジウムが、平成27年10月に本学福井キャンパスにおいて、開催された。第一回ジョイント・シンポジウムは、地域との共生をテーマに開催され、両大学の教職員・学生及びランパーン地区僧侶・住民を含め約150名の参加があった。写真-1は、タイ王国ランパーン地区のコットン繊維を用いた服飾のデザイン及び製作についての発表会の様子である。服飾のデザイン、製作及びショーのモデ

表-1 交流協定

機関名	国名
グリーンドウール大学	イギリス
サザンクロス大学	オーストラリア
オンタリオ工科大学	カナダ
北京理工大学	中国
中南大学	中国
関東大学	韓国
ネイション大学	タイ王国
ダナン大学	ベトナム
ホーチミン市工科大学	ベトナム
ベトナム教育訓練省	ベトナム



写真-1 ランパーン繊維の活用

ルもすべて、ネイション大学生によって行われた。写真－2は、ランパーン地区の竹製品と越前和紙とのコラボレーションを、ランパーン地区の僧侶のご指導の下に、本学学生とネイション大学学生が共同作業を行っている様子を示したものである。タイ王国の地方都市における精神的及び技術的中心は、僧侶であり、僧侶は、厳しい戒律の下に生活されているということである。戒律の一つに、肉体的にも精神的にも、女性と触れてはならないというものがあるが、その戒律にもかかわらず、本学の女子学生をやさしく指導いただいたことが、印象に残っている。また、3名の僧侶の方にご指導いただいたが、手の空いておられた僧侶の方々が、本学学生とネイション大学生とのコラボレーションの様子を、自らデジカメにより撮影されたいことも印象深かった。なお、写真－2に見られる竹製品は供物台であり、ランパーン地区の竹と越前和紙を組み合わせることにより、製品の柔軟性を高めようという試みであった。



写真－2 ランパーン竹と越前和紙のコラボ

平成27年10月に開催された第2回ジョイント・シンポジウムは、大学の地域に対する役割をテーマに開催され、両大学の教職員・学生及び一般の方々含め延べ約300名の参加があった。学術講演では、同一テーマ、例えばリモート・センシングについて両大学の教員が講演を行い、活発な討議がなされた。写真－3は、一部のシンポジウム参加者の写真である。シンポジウムの最後に、大学の社会に対する役割についてのパネルディスカッションを行った。少子高齢化などの大学を取り巻く社会環境は、本学及びネイション大学とも共通であるが、地方都市にある本学と地方都市ランパーンと首都バンコックにキャンパスのあるネイション大学との間では、役割が異なるのではないかとということで、活発な意見交換がなされた。本学及びネイション大学ランパーン校は、地域に対する責務があり、地域の行政、企業等を有機的に連携させるときのコアの役割を大学が果たすべきではないか等の議論がなされた。また、首都バンコックにあるネイション大学バンコック校は、将来、タイ王国の社会・経済を担うべき学生を育成する責務があり、教育も、同大学ランパーン校とは、異なる視点から行っているとの



写真－3 シンポジウム参加者（一部）



写真－4 パネルディスカッション

報告があった、

さくらサイエンスは、「未来を担うアジアと日本の青少年が科学技術の分野で交流を深めること」を目的として科学技術振興機構が実施しているものである。本学とタイ王国ネーション大学の学生が共同して、「地域特産物への科学技術応用」実施するとの提案を行い、さくらサイエンスに採択された。両大学は、従来から、地元企業との共同研究等を通して特産品への科学技術応用研究を行なっているが、本さくらサイエンスでは、タイ王国ランパーン地域及び福井地域の特産物を対象に、これらの改良に如何に科学技術を応用するかのワークショップを、両大学学生を主体とし、両大学教員の指導の下に開催し、タイ王国の学生に、日本の科学技術への関心を高めさせた。タイ王国から7名の学生を招聘し、本学の学生と共同作業を実施した。共同作業は、福井の繊維や福井の食品の新分野への技術的及びビジネス的展開について深夜まで議論した。写真-7は、共同作業の発表会の様子を示したものである。発表会終了後の打ち上げ会も深夜におよび両大学生の親睦を深めると共に、異文化体験も十分行えたものと確信している。

3. 在学生の留学支援

希望する学生について、本学では毎年、イギリス及びオーストラリアへの短期留学の機会を与えている。この短期留学では、学生はホームステイを行い、語学研修及び異文化体験を行っている。また単発的に、カナダ、フランス、フィンランドでの技術研修を行うことにより、学生の国際感覚を高める試みも行っている。平成27年度の試みとして、タイ王国のワットラジャオロス高校での夏期短期研修を実施した。この研修の初日に、バンコックで爆弾テロ事件が発生し、本学としては、参加学生の安全確保を最優先する対応を行ったが、研修参加学生にとって貴重な体験となった。



写真-6 福井めがね工業訪問



写真-7 共同作業発表会



写真-8 イギリスへの短期留学

大学院生に対しては、研究のための留学を勧めており、例えば、5ヶ月間、カナダのオンタリオ工科大学の研究室に在籍し、同研究室が行っている「新型放射線検出器開発」に共同研究者として参加し、本学での修士研究として認定するなどを行い、学生の目を世界に向けさせている。

4. 本学への留学生受入支援

平成27年12月現在、福井工業大学には、学部学生63名、大学院生2名の計65名の海外からの留学生が在籍している。これらの留学生が日本での生活を円滑に送り、安心して勉学に集中できるよう、生活・学業の相談、日本文化へ触れる機会の提供など、留学生が日本での生活で抱える様々な問題に取り組むためのサポートを行っている。経済的支援としては、本学奨学金及び日本学生支援機構学習奨励費、ロータリー米山記念奨学金、公益信託斉藤稜兒イスラム研究助成基金の獲得サポート、留学生在籍管理としては、インターナショナルセンター職員による面談、在籍確認カード、夏期、冬期、春期などの長期休暇前後の状態確認及び在留手続サポート等がある。上記に加えて、4月の新入留学生オリエンテーション、新入留学生歓迎会、5月の在学留学生犯罪防止セミナー、7月の異文化体験学習(越前陶芸村及び越前松島水族館)、夏休み前留学生オリエンテーション、10月の大学祭への留学生ブースの出店、1月の後期異文化体験学習(スキージャム勝山)、春休み前留学生オリエンテーション、3月の卒業留学生送別会等が留学生サポートの例である。写真-9は、福井県警にお願いして行った犯罪防止セミナーの様子を、写真-10は、松島水族館を借り切って行った異文化体験の様子を示したものである。



写真-9 犯罪防止セミナー



写真-10 松島水族館での異文化体験

これらの留学生への取り組みが評価され、日本語教育振興協会所属の日本語学校の教職員が外国人留学生に勧めたい進学先(大学・大学院・専門学校)を選ぶ「日本留学 AWARDS」大学理工系部門(西日本)で3年連続入賞および平成26年度及び平成27年度の2年連続で大賞を受賞した。

5. おわりに

福井にある福井工業大学は、国際交流、優秀な留学生の獲得を通じて、福井の国際化推進に努力していきたいと考えている。